

# 日本の故人に対する礼拝建築における場面の構成についての研究

祈り 故人 外部環境  
採光 礼拝空間 場面の变化

1915039 築地颯  
指導教員 脇坂圭一

## 1. 序

### 1-1 背景

現代の日本文化の特徴として無宗教の人が多いたことが考えられる。一方で、墓参りなどの故人に対する祈りも日本人には多い。阿満はこれはれっきとした宗教心の現れであり、むしろ日本人は無宗教というよりは特定の宗教に縛られることに抵抗があるように考えられ、自然発生的に様々なものに対して生まれた宗教心である「自然宗教」という捉え方で日本人の祈りは語ることが出来ると唱えている。(文1)

また、現代では度々話題として孤独死の問題や尊厳死、終末期医療の在り方など、「死」についての問題が度々挙げられてくる。一方で死という概念そのものは社会から遠ざかっているのではないだろうか。上田は死者の為の鎮魂ではなく、しだいに生者の側の都合が優先されてきていると述べている。(文2)

### 1-2 研究の位置づけと目的

教会や火葬場、礼拝堂といった建築機能別の空間構成や建物計画が行われている論文は複数存在するが、要素を横断した、全国の故人に対する祈りの空間における比較、パタン化は現状なされていない。(図1)

そこで故人の為の礼拝建築における場面の展開を、外部環境の取り込みにおける場面の变化、光の取り込みにおける場面の变化からみて、それらの傾向を明らかにすることを目的とする。また、追悼空間における研究では建築空間だけでなくそこに至るまでの過程に重きを置く必要があると考えた為、横断的な研究とする。

要素 用途	外部構成				人のふるまい 礼拝行動	設計意図 思想
	光	平面	奥行き	装飾		
崇拝的祈りの空間	教会トッ プライト の形態的 特	祠堂建築 の空間	教会の内 部空間の 空間囲包 性	装飾	「祈り」行動 の分析と設計 への適用	教会礼拝 堂及び聖 堂の設計 論におけ る主題
	現代教会 建築の礼 拝空間に おける光 と陰影に よる空間 表現	礼拝室の 平面構成 とドーム 空間		礼拝空間 設計論に みる境 界の演出 手法		ロンシャ ンの丘” における 設計思想
追悼的礼 拝空間	光と芸術 作品の効 果からみ た火葬場	欧州火葬 炉室空間 と火葬炉 デザイン	本研究		火葬場配 列と連続 性、外部 要素の取 り入れ方	

図1 既往研究と本研究の位置づけ

## 2. 研究方法

### 2-1. 選定事例

2000年以降の新建築に掲載されている建築の中から、1) 故人への祈りとして判断できるワードとして本文中に①故人②追悼というワードがいずれか含まれていること、2) 図面、写真から空間の変化が読み取れるもの。この2点を満たす建築を追悼的祈りの建築として取り上げる。これにより抽出された建築18ヶを対象とする。(表1)

表1 対象事例一覧

番号	施設名	略称	新建築	用途	竣工
①	福岡市立平尾霊園合葬式墓所	平尾	2021.9	合葬式墓所	2021.3
②	高田松原津波復興祈念公園 国営追悼・祈念施設	高田松原	2020.1	博物館 物販店	2019.6
③	日野こもれび納骨堂	日野	2019.1	納骨堂	2018.3
④	猪名川霊園礼拝堂・休憩棟	猪名川	2017.9	墓園	2017.4
⑤	若人の広場	若人	2015.6	管理棟 記念塔 公園	2015.3
⑥	龍泉寺八聖殿	龍泉寺	2015.7	納骨堂	2015.3
⑦	狭山湖畔霊園管理休憩棟	狭山休憩	2014.7	事務所	2013.1
⑧	狭山の森礼拝堂	狭山礼拝	2014.7	礼拝堂 納骨堂	2014.1
⑨	竹林寺納骨堂	竹林寺	2013.7	納骨堂	2013.4
⑩	広島市西風館	西風館	2012.4	火葬場	2011.2
⑪	瞑想の森 市岩斎場	瞑想	2006.7	火葬場	2006.5
⑫	渋谷山東福寺涅槃堂	渋谷	2006.5	火葬場	2005.12
⑬	今治市火葬場/すいふう苑	すいふう	2005.3	火葬場	2004.02
⑭	浄土宗 長谷院	長谷院	2004.12	寺院・庫裏	2004.07
⑮	筑紫の丘斎場 (R/C)	筑紫	2003.7	火葬場	2003.03
⑯	国立長崎原爆死没者追悼 平和祈念館	長崎原爆	2003.8	祈念館	2003.03
⑰	国立広島原爆死没者追悼 平和祈念館	広島原爆	2002.8	博物館	2002.03
⑱	日蓮宗法華堂教会 江東メモリアル	日蓮	2001.8	寺院	2001.03

### 2-2. 研究方法

「新建築」誌より、各事例の平面図、断面図を収集し単線図としておこす。平面図では礼拝空間に至るまでのアプローチを示し経路として設定する。断面図では採光手法が分かるように光の線を表す。3章、4章では建築の敷地から礼拝空間に至るまでのアプローチで、外部環境の取り込み方法がどう変化しているのか平面図、断面図、写真を用いて判断し、動線断面図としてそれぞれ事例ごと1枚の図に落とし込む。

外部環境は森、林からなる「自然的緑」、つくられた庭、植栽からなる「人工的緑」、川、海、湖、水盤からなる「水系」の3項目による分類を行った。

採光手法では、光が直接差し込む「天空」、人間の真上から差し込む「天窗」、人間から見て高い位置から光が差し込む「高窓」、人間と同程度の位置から差し込む「掃き出し」、人間の足元から差し込む「地窓」、の5項目による分類を行った。(図2) (図3)

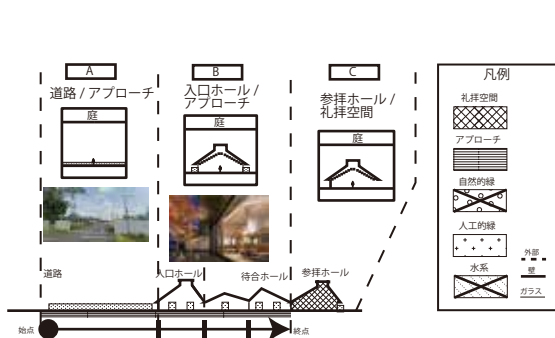


図2 外部環境日野動線断面図

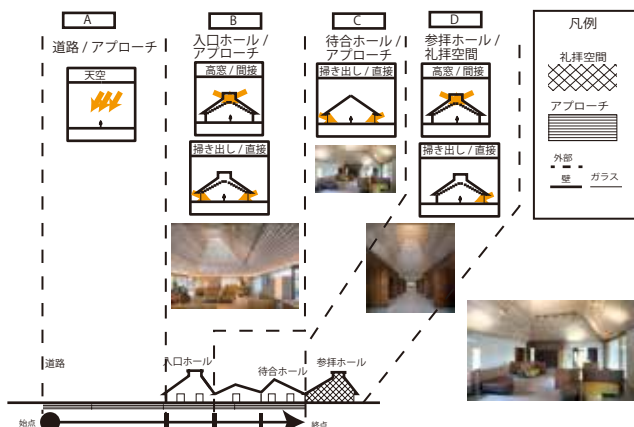


図3 自然光日野動線断面図

### 3. 外部環境の取り込みにおける場面の变化

事例をそれぞれ、アプローチを外部、建築内部に分けた。外部、建築内部、礼拝空間の3つの過程より場面の变化を模式図化し、傾向を明らかにした。

結果、対象事例における場面の变化の分類は大まかに自然的緑の変化、人工的緑の変化として分けられた。区分は「人工的緑継続型」、「外部人工的緑→礼拝空間無し型」、「外部自然的緑→礼拝空間人工的緑型」、「外部自然的緑→建築内部無し型」、「外部自然的緑→礼拝空間無し型」、「自然的継続型」の6グループに分類できた。(図4)

#### 「人工的緑継続型」について

人工的緑が礼拝空間まで続いている事例は3件であった。事例ごとに变化の仕方は異なるが、始点で取り込みがある人工的緑が終点の礼拝空間にも存在する区分となっている。高田松原は外部での变化が豊かである。長谷院は日野とほぼ変わらない变化をしているが、礼拝空間直前で取り込みを無くすことで礼拝空間の緑を際立たせていると考察する。

#### 「外部人工的緑→礼拝空間無し型」について

外部が人工的緑で構成され、礼拝空間では取り込みが無い事例は6事例あった。事例ごとに变化の仕方は異なるが、建築内部で取り込み無しとなり、それが礼拝空間まで続く事例が5事例と多い。この敷地での礼拝空間では比較的閉じる傾向があることが明らかとなった。(図5)

#### 「外部自然的緑→建築内部無し型」について

外部、礼拝空間が自然的緑で建築内部では取り込みが無い

外部自然的緑→礼拝空間無し型

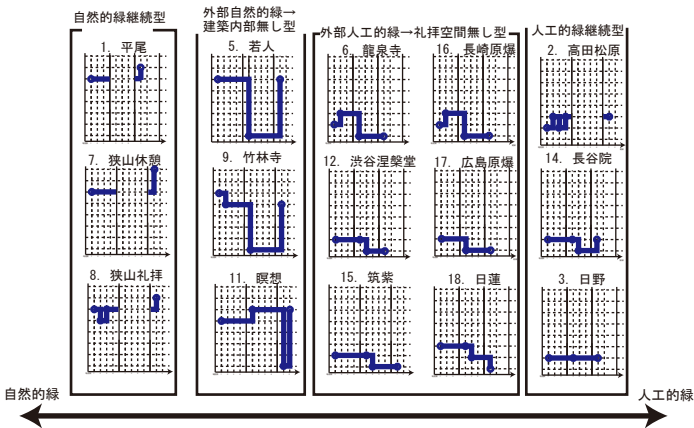
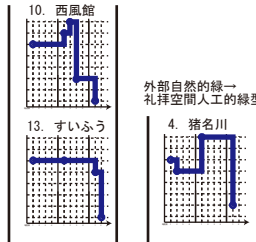


図4 外部環境の取り込みにおける場面の变化の分類

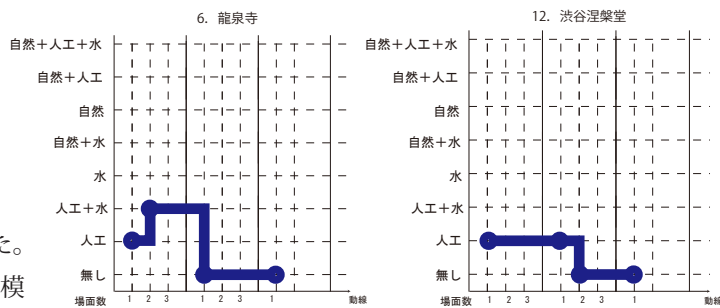


図5 龍泉寺・渋谷涅槃堂の外部環境における場面の变化

事例は3事例あった。この分類の事例は、最後の礼拝空間の直前に取り込みが無い場面がある事例となっており、礼拝空間での演出をより高める構成となっている。また、外部環境をより高めて取り込むものとなっている。

#### 「外部自然的緑→礼拝空間無し型」について

外部で自然的緑を取り込み、礼拝空間で取り込みがなくなる事例は2事例あった。この事例は外部から建築内部にかけては豊かな外部環境を取り込んでいるが礼拝空間ではそれらの取り込みが無くなっている。アプローチで豊かに取り込み、礼拝空間を閉じた構成にすることでメリハリをつけている。

#### 「自然的緑継続型」について

自然的緑が礼拝空間まで続く事例は3事例あった。この3事例はアプローチにおける建築内部の空間がなく、外部から直接礼拝空間に至る事例となっている。外部では自然的緑のみとなっているが礼拝空間では要素が増えていることが分かり、礼拝空間での演出の工夫がなされている。

#### 「外部自然的緑→礼拝空間人工的緑」について

外部では自然的緑となり、礼拝空間で人工的緑となる事例は1事例のみとなった。豊かな環境が続くことから、あ

えて礼拝空間では規模を小さくしより礼拝に意識を向けることが出来る構成にしていると考えられる。

#### 4. 自然光の取り込みにおける場面的変化

第3章と同じく外部、建築内部、礼拝空間の3つの過程からそれぞれを見て傾向を明らかにする。

本研究の事例における場面的変化の分類は以下のようになった。光量の差から見て分類出来た。区分は「無し→上部型」、「上部→下部型」、「掃き→上部型」、「高+掃き継続型」、「天空→高+掃き型」、「上部継続型」、「天空継続型」の7グループに分類できた。(図6)

「無し→上部型」について

最後の礼拝空間直前で採光手法の取り込みがなく、礼拝空間で天窓や高窓の上部からの取り込みを得ている事例は4事例となった。建築内部では掃き出しや高窓からの取り込みがあるが、礼拝空間前で取り込みが無くなっている。礼拝空間では天窓、高窓の上部から取り込む構成となっており、より象徴的な光を演出していると考えられる。(図7)

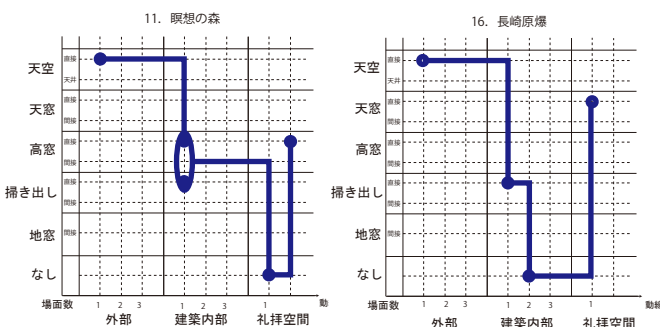


図7 瞑想・長崎原爆の採光における場面的変化

「上部→下部型」について

建築内部で高窓の上部から光を取り込み、礼拝空間では地窓のみの取り込みとなる事例は2事例あった。建築内部では高窓+掃き出しからの取り込みが続く中で礼拝空間では地窓、取り込みなしとなり、礼拝空間で光を絞ることにより故人に集中する空間を形成している。

「掃き→上部型」について

建築内部では掃き出しによる横からの採光を取り、礼拝空間では天窓の上部からの取り込みをしている事例は3事例あった。採光の取り込みに大きな変化は生じないものの、礼拝空間までは高い位置から光を入れず礼拝空間での象徴性を強めていると考えられる。

「高+掃き継続型」について

高窓+掃き出しによる自然光の取り込みがアプローチから礼拝空間まで続いている事例で、2事例該当した。場面的変化は若干異なるが、アプローチから礼拝空間まで都市の中でも豊富に光を入れている。

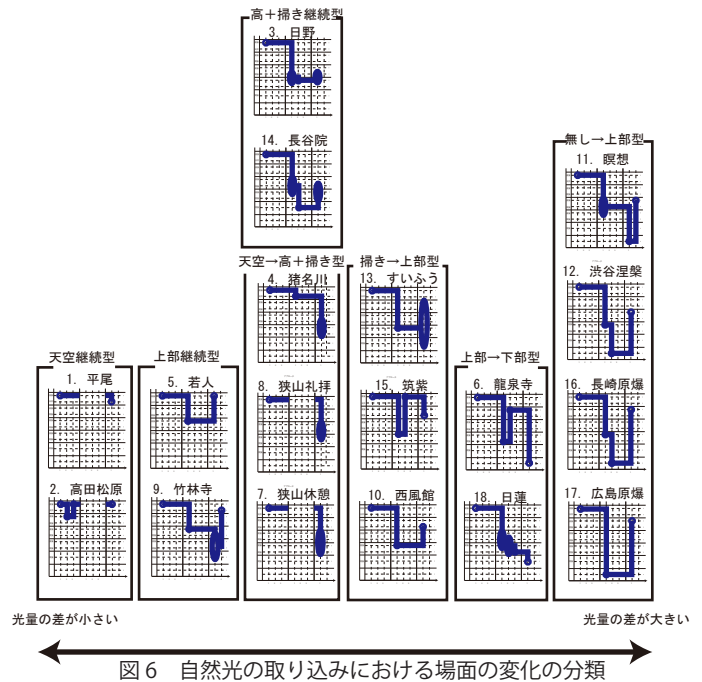


図6 自然光の取り込みにおける場面的変化の分類

「天空→高+掃き型」について

天空から高窓+掃き出しへと変化している事例は3事例該当した。アプローチでの光を維持して、礼拝空間でも上部から光を落としている。また掃き出しも設けて横からの自然光を入れ空間を演出している。

「上部継続型」について

建築内部では高窓から取り込み、礼拝空間では天空の取り込みとなる事例で2事例該当した。この2事例は最後の礼拝空間が外部にあることから礼拝空間が天空となっているが、建築内部においても上部の高窓から光を入れており、継続している。

「天空継続型」について

アプローチから礼拝空間まで建築内部が無く、外部となっている事例で2事例該当した。建物として立つのではなく外の環境を際立たせる建築になっている。

#### 5. 外部環境の取り込みと自然光の取り込みから見える傾向

本章では3章で見た外部環境の取り込みと4章で見た自然光の取り込みを掛け合わせて、各場面でどういった場面が展開されているのか明らかにする。

##### 5-1. 外部環境の取り込みと自然光の取り込みの関係性

3章で明らかにした外部環境の取り込みと4章で明らかにした自然光の取り込みを合わせて見る。(図8)結果、グループが作成できた為各特長を述べる。

グループAについて

グループAは自然的緑が外部、礼拝空間に広がり自然光は天空、天窓、高窓の上部から差し込む事例となっている。外部の豊かな緑を礼拝空間と密接させておりその結果、天空や高窓といった光の取り込みになっていると考えられる。



## グループBについて

グループBは自然的緑が外部に広がっているものの、礼拝空間ではその環境を取り込んでおらず、光は掃き出しから天窓へと変化している事例となっている。礼拝空間ではその取り込みは無いものの、天窓から入る光が象徴的なものになっている。礼拝空間ではあえて外部から閉じ、上部から入る光が故人との対話を促すものとなっていると考えられる。

## グループCについて

グループCは外部で人工的緑が広がり、礼拝空間ではそれが続くもの、取り込みが無い無いもので、自然光の取り込みでは光の量においての差が大きい事例となっている。自然的敷地程豊かな外部環境は取り込めない。その分、自然光の取り込み無しから天窓や高窓で取り込む事例や、天窓や高窓から地窓へと変化し光量を抑える事例など光の変化を大きくし場面を操作するものとなっている。

## グループDについて

グループDは人工的緑が続き、採光は天空や高窓+掃き出しが続く事例となっている。アプローチから礼拝空間まで外部との関係を切らず、取り込みながら建築を構成しているものとなっている。

## グループEについて

グループEは⑩瞑想の森のみで、外部は自然的緑で礼拝空間直前に取り込みが無い事例となっている。光量の変化は傾向から逸れて大きくなっており、外部環境の取り込みでは無く採光で場面を変化させている。

## グループFについて

グループFは④猪名川のみで、外部は自然的緑で礼拝空間

では人工的緑となり、採光は天空から高窓+掃き出しとなる事例となっている。

## 6. 結

本研究では外部環境の取り込み方を3章で述べた6つの型、自然光の取り込み方を4章で述べた7つの方に分類した。結果、外部環境の取り込み方における場面の変化、自然光の取り込みにおける場面の変化の傾向が明らかになった。

3章の外部環境の取り込みでは礼拝空間までに大きく場面が変化する分類や場面が続く分類に分けることが出来た。

4章の自然光の取り込みでは光量にける場面の変化が大きい分類や光量の差における場面の変化が小さい分類に分けることが出来た。

これらから外部環境の取り込みにおける場面の変化と自然光の取り込みにおける場面の変化を統合してみると、自然的緑の割合が大きいほど光量の差が小さく(Aゾーン)、人工的緑の割合が大きいほど光量の差が大きい(Cゾーン)ことが明らかとなった。またDゾーンのような人工的緑でありながら光量の差が小さい、均質な事例もみることが出来た。

## 参考文献

- 文1) 阿満利磨著,「日本人じゃなぜ無宗教なのか」,1996
- 文2) 上田正昭,「死を見つめて生きる」,2012
- 文3) 古澤大輔他,火葬場建築における空間の配列と連続性および外部要素の取り入れ方に関する考察,日本建築学会大会学術講演梗概集,2000
- 文4) 玉木仁志他,弔う人,光の流れと芸術作品の効果からみた火葬場空間の特質について:葬祭施設の建築計画に関する研究,日本建築学会大会学術講演梗概集,1990,10
- 文5) 荒木恒介他,ロンシャン礼拝堂の採光装置と光の現象,日本建築学会近畿支部研究報告集,2004

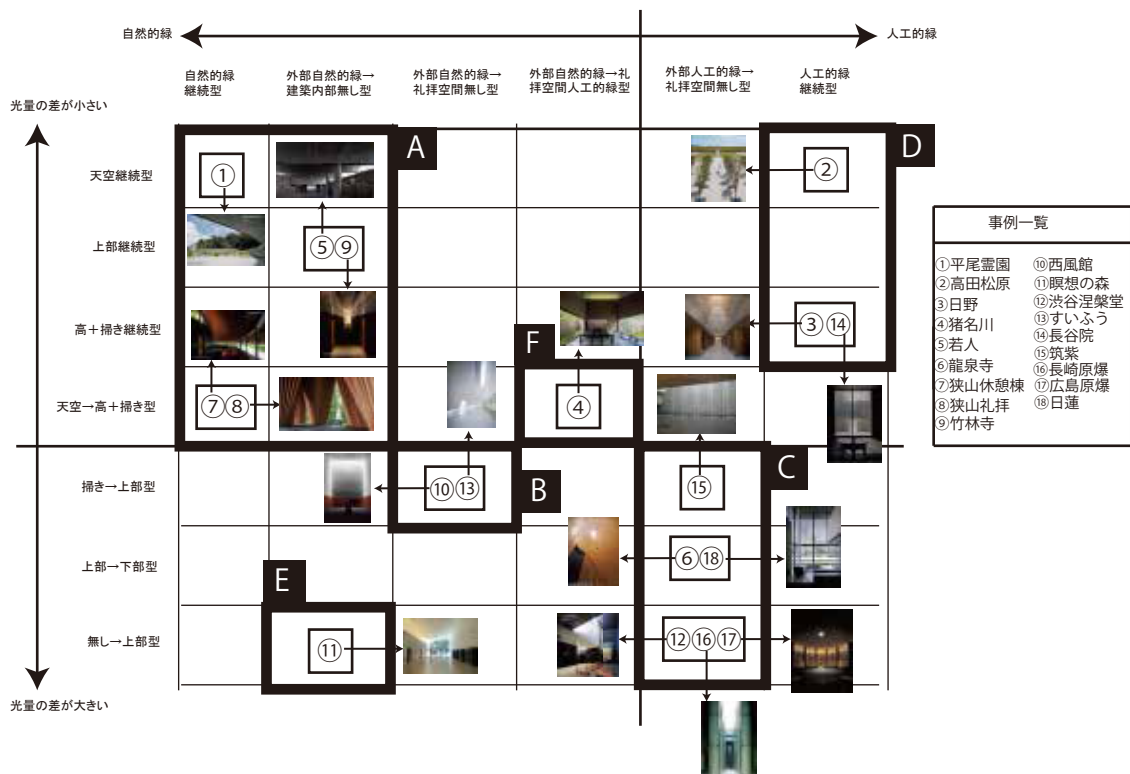


図8 外部環境の取り込みと自然光の取り込みの関係性